
空は飛べないけど

みゆ貴茂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空は飛べないけど

【Nコード】

N1006E

【作者名】

みゆ貴茂

【あらすじ】

人間の可能性の話。人間は鳥のように空を飛ぶことはできないけど、人間だからできることがある。友情が教えてくれる、大切なこと。

「オレは鳥になる!!」

そう叫んでアタルは屋上から飛び降りた。

思いっきり助走をつけて翔んだアタルは、確かにそのとき空と太陽の一部になった。

しかし、それはほんの一瞬のことで、太陽はアタルを地面へと叩き落とす。

まるで、翼を失ったダイダロスの子のように。

アタル 馬鹿だよ、お前は……。

大馬鹿だ。

「うえ〜ん。痛いよお、修ちゃん」

生きてやんの……。

病院に見舞いにきた俺を見て、アタルは泣きじゃくりながら俺に痛みを訴えてくる。

「あたりまえだ、ばけ！四階から飛び降りて、輝だけですんだのは奇跡的なんだぞ！！」

「うにゅう」

俺が本気で怒鳴ると、体をシュンと丸めるアタル。

「今度、ばかりは本気でっ本気で」

「ごめん、修ちゃん」

「……………」

アタルのごめんを聞き、俺は頭を抱えた。

「……もういい」

俺はため息をついて、ベッドの脇にあったパイプ椅子に腰を下ろす。

日浦アタルは昔から変わった男だった。

幼稚園のときには俺の作った粘土のお団子を食べて腹を壊した。

小学生のとき、『夏休みの工作で東京タワーを作る』と言って教室に机や椅子を高く積み上げ、それが崩れた拍子に初代校長の像が首から折れて、大目玉を食らった。

なぜか止めようとしていた俺まで。

中学のとき、地球の裏側が南アメリカだと知ったアタルは、『ちよつくらサンバ踊ってくるぜ』とか言つて、穴を掘り始めて生き埋めになった。

そして、高2の今日、『オレは鳥になる』と叫んで屋上から飛び降りたのだ。

何度、友達止めようと思ったか知らないけど、結局はフォローしてしまふ自分がいるのだから仕方がない。

「ほらよ」

「うわあ」

俺は持つてきた画板から一枚の画用紙を取り出す。
それを見てアタルは目を輝かす。

「空だあ」

アタルははしゃいで言つた。

それは俺が描いた空の絵。

アタルが数日前から、『鳥っていいな。鳥っていいなあ』と空を見ながらぼやいてたので、
嫌な予感がしていた俺は、慌ててこの絵を描き始めたのだが
間に合わなかった。

俺はアタルの目を真っ直ぐと見つめて言う。

「いいか、アタル。人間は鳥にはなれない。鳥みたいには空を飛べないんだ」

「……………」

アタルは寂しそうに目を伏せる。

うぐつ。こらえろ、俺！！

「ちゃんと聞け！！確かに人間は空を飛べない。

でも、その代わりにこうやって絵を描いたり、物語を書いたり、歌を歌ったりして、

心の中で空を飛ぶことができるんだ」

「修ちゃん……」

「俺はドラえもんみたいに、タケコプターだしてはやれねえけど、絵は描いてやれる。だからそれで我慢しろ」

「うん」

アタルは素直に頷いた。

俺の描いた絵を嬉しそうに眺めながら。

昔、アタルのおふくろさんに聞いた話では、アタルの脳にはほんの小さな傷があるらしい。日常生活を送るにはなんの問題もないけれど、ときどき突拍子もないことをしだすのはそれが原因のようだ。

だから、こうやって頭ではなく、心で理解させてやらなきゃいけないんだ。

「ありがとう修ちゃん」

「おう」

につこり笑いながらそう言うアタルの頭を俺はぽんと叩いた。

多分、この言葉を聞くために、俺は友達止めれないんだと思う。

「ねえ修ちゃん」

「ん？」

アタルはへらへらと笑って俺に告げる。

「オレ、魚になるよ」

「
！！！！」

さすがにブチギレました、俺。

数年後、アタルは素潜りの世界大会で優勝した。

キラキラと太陽を反射させている波の上で、拳を突き上げながら、

「修ちゃん、オレ魚になれたぜえい!!」

そう、俺に向かって叫んだ。

アタル、お前は人間だよ。

人間だから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1006e/>

空は飛べないけど

2010年10月14日22時18分発行